



ダイヤモンドナース通信

第24号 平成30年10月25日発行

急性・重症患者看護専門看護師（CCNS）

栃木県の病院で働いていましたが、昨年秋田県に移住し、今年度から皆さんの仲間入りをさせていただきました。患者さん・ご家族へのより良いケアと一緒に考えさせてもらったり、少しでも皆さんのお役に立てるよう、勉強会や研究活動に参加させていただきたいと思っています。まだまだ未熟者ですが、どうぞよろしくお願いします。

★今回は集中治療・救急領域のトピックスを紹介します★

**命を救うICUから、社会復帰を見据えたICUへ
－ PICS予防に取り組んでいます －**

以前の集中治療領域では、救命のためなら苦痛を伴うことは仕方がない、プライバシーがないのも仕方がない、家族や社会から隔絶されるのは当たり前でした。こうした治療・ケアによって、ICU入室後28日生存率などの短期的なアウトカムは改善されました。

一方で、ICUに入室していた患者さんの多くに、抑うつ症状が出現したり、ADLが改善しないことが見られました。このようなICU退室後の運動・認知・精神障害は、**集中治療後症候群**（post intensive care syndrome : **PICS**）と呼ばれ、患者さんのQOLに大きな影響を与えます。

**当院のICUでは、命を救うだけでなく、患者さんの
社会復帰を見据えた治療・ケアを行っています!**

取り組み① ICUからの早期離床

今年度から早期離床チームが誕生しました！

患者さんの状態や、実施可能なリハビリテーション、今後の目標について、多職種で毎朝カンファレンスを実施し、安全にリハビリテーションを行うことで、患者さんのADLの維持・向上に努めています。

ICUでは、入室直後から多職種が協働し、積極的にリハビリテーション・離床を行っています。

患者さんのために
毎朝カンファして
います！



早期離床チームによる朝カンファレンスの様子

取り組み② ICUダイアリーの作成

皆さんの中には、「ICUの時の記憶がない」という患者さんを担当された方もいるかと思います。

ICUに入室していた患者さんは、薬剤の影響などから記憶が欠落している方が多くいます。ICUでは看護師が日記を作成し、記憶の穴埋めのお手伝いをしています。ICUダイアリーで記憶の穴埋めをすることで、患者さん・ご家族の抑うつを予防することが期待できます！



ICUダイアリーのイメージ図

出典：<https://ar-ar.facebook.com/kansai.ccc/posts/%E6%96...>

日本でICUダイアリーに
取り組んでいる病院は少なく、
当院のICUは先駆的に
ダイアリーに取り組んでいます！

**ダイヤモンドナース通信は
看護部ホームページにも掲載しています！**

担当：
急性・重症患者看護専門看護師

イラスト出典：<http://pancos-sozai.com/>